Affiliated with the International Association
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOUJI
Chartered October 30. 1994

〒 192-0906
東京都 八王子市北野町 575-22
並木　真　TEL：090-4314-3044
Fax:042-649-5276
E-mail: m.namiki1020heartbeat@gmail.com

2023年10月　The Service Club of The YMCA　第340号

東京八王子ワイズメンズクラブ

会　長	並木　真
副会長	久保田　貞視
書　記	小口　多津子
会　計	長谷川あや子
直前会長	花輪　宗命
担当主事	菅野　牧夫
ブリテン	山本　英次　茂木　稔 大久保　重子

国際会長 ウルリック・「ユースアクションをワイズの主要な活動の一つに」
あずさ部部長ラウリドセン（デンマーク）主題「輝かそう、あなたの光を」
　スローガン「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」
アジア太平洋地域会長　利根川　恵子（川越）　主題:「変革のための光となろう」
　スローガン「親睦を通して、輝き、力を得よう」
東日本区理事　山田　公平（宇都宮）　主題：「未来のために今、学びと気づきを！
　未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」
あずさ部部長　森本　俊子（長野）　主題「よい結果をもたらす心の安定と考える力を」
　～面白いと思えることを再発見しよう～
八王子クラブ会長　並木　真　主題「リアルな活動とつながりを！出来ることをやる！

10 月例会プログラム

(担当:C 班:山本、大久保、茂木、並木(信))
日時:10 月 14 日(土)　13:00～15:00
会場:高尾の森わくわくビレッジ教室
受付:大久保・山本
進行:並木信

開会点鐘	並木真会長
ワイズソング	一同
ワイズの信条	一同
ゲスト・ビジターの紹介	並木真会長
聖書朗読・食前の感謝	並木信一
あずさ部部長公式訪問挨拶	森本部長

会食
卓話:「私とハンドベル」:あずさ部部長　森本俊子さん

諸報告	会長・YMCA・各委員
スマイル	茂木
ハッピーバースデー	並木真会長
閉会点鐘	並木真会長

巻　頭　言

森本部長公式訪問を迎えて

長谷川あや子

2023-24 年度も 3 か月が過ぎました。部長の森本さん、会計の倉石さん、書記の私、バックアップして下さる仙洞田さん(甲府やまなみ)、原淑子さん(富士五湖)と共に協力しながら今日に至っています。長野、山梨、東京と遠隔にありながら気持の齟齬もなく、道筋を立てて話し合ってこられたのは 20 年以上のお付き合いのある間柄だったこと、そして何よりもこれがあずさ部のよいところ、持ち味なのだと思います。

先月の例会ポイント（9 月）

在籍	13 名	切手	0g
		22～23 年度	計 1698g
メン	9 名	現金	0 円
メイキャップ	0 名	累計	0 円
出席率	69%	スマイル	8,500 円
メネット	3 名	累計	36,430 円
ゲスト	6 名	オークション	0 円
ビジター	0 名	累計	0 円
ひつじぐも	6 名		

今月の聖句(2023 年 10 月)

イエスに触れていただくために、人々が子どもたちを連れてきた。弟子たちはこの人々を叱った。イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。「子どもたちを私のところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。よく言っておく。子どものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。そして、子どもたちを抱き寄せ、手をおいて祝福された。　(新約聖書・マルコによる福音書 10:13~16)

7 月 15 日、第1回評議会に 55 名の出席者を得て無事に終わった時はホッとしたものでした。長野クラブは長年、森本さんがクラブ会長を務めていらっしゃいましたが、今年度は新入会員の青山史恵さんが会長として若い力を発揮されています。森本部長を支えるべくクラブが一丸となって協力しています。

私自身は 10 年前、森本さんがクラブ会長として主題に掲げられた「何事も一人の情熱に始まる」に感銘を受け及ばずながらお手伝いしたいと思ったわけですが、森本さんの行動力は今も目を見張る思いです。長野クラブは少人数ですが地域に根差した奉仕活動をずっと続けています。栄村の支援活動を数年にわたって続けられ、冬には遊雪の会を企画し西日本区の方も参加したり、意表を突く活動でした。2016 年に長野で第 19 回東日本区大会をホストされた時のことも思い出されます。素晴らしい大会でした。

7 月から始まった部長公式訪問―甲府 21 クラブを皮切りに東京西、甲府やまなみクラブにご一緒し、10 月 10 日は甲府、14 日は東京八王子と続きます。夜のクラブ例会に長野からいらっしゃるのは本当に大変でご帰宅は夜中になってしまいます。それで八王子クラブとしては昼間の時間帯にいらして頂きたいと、13 時より高尾の森わくわくビレッジで例会を開催することにいたしました。

森本さんは趣味の広い方で甲府やまなみクラブでは

香道のお話をして下さいましたし、八王子クラブではハンドベルのお話を伺います。長野五輪後ハンドベル愛好者の会が出来、その後、日本国内はもちろん世界大会やアジア大会にまで出演されたそうです。2022 年 5 月の評議会では素晴らしい演奏をお聴きしましたね。10 月例会でどんなお話が伺えるかとても楽しみです。

9 月卓話者：横森佳代氏

東京八王子ワイズメンズクラブ(+中央大ひつじぐも)の例会で、国際貢献について、お話をさせていただきました。個人～民間～ODA～国際組織～企業～政治など、様々な方面からのアプローチについて現状を語り、人生の大先輩や学生さんを交えて問いかけや質疑応答の形で議論し、テーマを深めていきました。

見れば見るほど絶望的な世界の構造を感じてしまいますが、少しでも踏み出して豊かな社会となりように、繋げていければと思います。

ワイズメンズは YMCA を支援する世界的な NGO 組織ですが、まさに Wise で積極的な方々の集まりでした。横の繋がりの広さを活用し、世界に働きかけておられます。〃

講演する横森東京農工大学准教授

9 月例会：横森先生を囲んで

9月卓話「日本の国際貢献を知る。」
東京農工大学准教授　横森佳世

現在、東京農工大学の准教授ですが、国際協力NPO世界の医療団の理事をしています。大学を卒業して銀行に入ったのですが、米国のNGOがインターンシップ募集の記事が目に入り、中学時代に国連事務総長のハマーシェルドの伝記を読んでから将来国際協力・援助の分野で働きたいと思っていたので飛び込みました。最初の仕事はネパールの難民キャンプで生活支援のプロジェクトでした。四半世紀前です。しかしこの時大きな挫折を感じました。善意だけでは何もできないと感じ、言葉も分からず飛び込み、先進国に生まれたから大丈夫と思っていた間違いに気付き、帰国して大学院で国際公共政策研究科の修士号をとり、ケニヤッタ大学でも公衆衛生及び疫学研究科の修士号を取りました。

その後、マザーテレサに会いに行きました。彼女はホスピス・最期を看取るための施設でご尽力されていました。これに感化されてまずは一人の支援から行おうと考え、専門家として海外に行き始めました。最初にバングラデッシュではマイクロクレジットを扱うグラミンバンク(創立者のモハメッド・ユネス博士と共に2006年ノーベル平和賞受賞)で修業させていただき、ミャンマー、ケニヤ、ガイアナで働きました。ガイアナでは人種差別を受けました。外国は約70か国で働きました。援助と言う時に担い手は誰かと考えると国際機関が浮かびます。例えば国連でもUNISEF,UNDP(国連開発計画),UNESCO,UNEP(国連環境計画)WFP(国連世界食糧計画)などありますが、資金がない。JICAにファンドレイジングに来たりする。国際金融機関にはお金はあるが人がいない。

ODAは政府開発援助で外務省とかJICAが行っています。ODAには米国、英国、オーストラリア、韓国に加えて最近はタイ、インド、ベトナムサウジ、中国も進出しています。これに対して民間ベースなのがNGOです。私はAMDA(国際医療情報センター)にいました。国境なき医師団、ジャパンプラットホーム、セーブ・ザ・チュルドレン、赤十字もNGOです。また、組織に入らず個人・民間ベースではマザーテレサやビルゲイツ・メリンダ財団、グローバルファンド(元世界基金でエイズ・マララ対策基金)があります。WFPは官学連携です。

多国間援助機関(Multinational Agency)では世界銀行、アジア開発銀行、IMFなどあります。

JICA(日本国際協力機構)の話に移ると、2003年10月1日に外務省の外郭団体として発足。JICAは世界で最も資金規模のおおきな二国間援助機関です。ODAです。具体的には、資金援助で有償資金援助と無償資金援助があります。有償資金援助はローンで低利で長期間ローンし、低利だが利息を取り返済を要求する。無償資金援助では資金供与で造った橋とか建物は贈与となる。また、技術協力は日本のODAの柱です。日本から専門家を派遣して現地で一緒に汗をかいて技術を移転する。また、海外産業人材育成協会(元海外技術者研修協会)では海外から若手の技術者、特に政府機関の方を呼んで技術の研修をしています。

JICAのボランティア派遣では青年海外協力隊があり、期間は2年間で大体途上国に行きます。

2008年の時に有償資金協力部門、無償資金協力部門、技術協力部門が一緒になって今のJICAになったのですが、緒方貞子さんが理事長になった時でした。彼女は現場主義を大事にし、アフリカにも多くの人を送りました。

JICAの活動は当初資金力があったため、東南アジアや南アジアで深い関係があり主導権をとったのですが、2013年から国別順位では4位となっています。日本は人材育成が得意で、農業、財政、金融、法整備、インフラ、少数民族支援などなんでもやっています。

第1位は緊急支援です。多くは自然災害です。人的災害では憲法上の理由により出せません。

緊急支援の後は復興支援、開発支援となります。そのためには現地のパートナーも必要です。

JICA等政府関係の援助では日本のメディアでの報道が大切で、税金を払っている国民に理解してもらうことが必要です。駐在しているときに新聞社の現地特派員と仲良くなり記事にするよう依頼します。

コンゴー、ザイール、ルワンダ、リベリアでの例を取り上げました。発展途上国では保健医療の教育や、ミャンマーでインフラ整備もしました。

援助の方針としては、相手国のオーナーシップを重視する、ドナー同士で調和を図る、成果をきちっと出す。透明性も高めることを念頭に置く。

援助について各国を比較すると、欧州の団体は資金援助が好きで、一方日本と米国は技術援助が好きです。現場での援助では日米同盟を感じます。

ミャンマーはトータルで7年駐在し、保険医療で行ったものの、障害者支援、農村開発、人身取引の支援者・被害者支援など人道支援全般の感じでした。

途上国にNGOの援助関係者で行く時とODAの関係者で行く時とは人道支援の意味合いが異なり、NGOは本当に現場の人の為ですが、ODAで行くときは日本国の利益になるように考えないといけないし、歴史的評価に耐えうる援助となります。

ODAやNGOで開発援助や人道支援等で途上国に行くと、現地の事情を知ることが必要ですが、テロ、治安の問題を考慮し、孤独、人種差別に合うこともあり、自分の体調管理が必要です。日本に帰国したときに研修を受講したり、人質になった時の対応の訓練もあります。また、家庭との両立とか時間との闘いなどありますが、国際協力はやりがいがあります。

世界の状況を知るために勉強会を開いたり、新聞、ニュースを見る。また、相手を理解するための自分自身の教育、心理の勉強も大事でしょう。国際協力にプロとして携わるには体力、語学(英語プラス現地語)、専門知識、フィールド経験、現場を大事にすると共に理論とのバランスが必要です。判断基準です。

ODAで上から指示が来ても自分は何がやりたいか、何が好きか、現地で働きたいとか希望をはっきり言う。強い精神力を持つことです。また、相手のいうことをきくのは勿論ですが自分の主張を持つことが国際社会では大事です。　**文・久保田貞視**

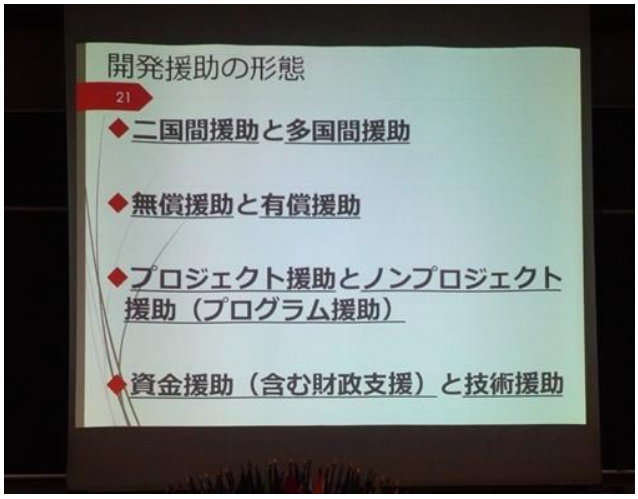
始めてのワイズ例会

文学部1年　武田万里

今回初めて例会に参加させていただき少し緊張もありましたが、東京八王子ワイズメンズクラブのメンバーの方々をはじめあたたかく迎えていただき、終始リラックスしてお話を聞くことができました。

例会のメインである横森先生の卓話「日本の国際貢献を知る」では、国際協力の概要から先生ご自身わたってお話を聞くことができ、実際に参加したからこその多くの情報を得ることができ勉強になりました。とくに印象に残ったのは、緊急救援におけるチーム派遣の基準の一つに日本のメディアに報道されたかという項目があるということです。メディアで報道されることで資金が集まるからという理由も含め卓話全体を通して、善意だけでは国際貢献は成立しないこと、国の意向や他国との連携が関わることを理解し行動に移すことが重要だと気づきました。

またワイズメンズクラブの活動報告から他にも国際貢献に関することを行っていると知り、今後も例会やワイズの活動に参加したいと思いました。



横森先生のスライドより

ＡＹＣ２０２３報告

ユース事業委員　衣笠 輝夫

アジア太平洋地域ユースコンボケーション2023(AYC2023)が無事終了し、全員無事に帰国いたしました。みなさまのご支援、ご協力に感謝いたします。今回、ネパールのカトマンズで行われたAYC2023はいろいろな意味でターニングポイントになりましたので、その特徴を以下にまとめました。

1. 参加ユースの数と参加分野

参加人数:全体での参加者は 50 数名で、その内、東日本区から13人、西日本区から3人計16人の過去最大の参加者数になりました。

参加分野:都市YMCAリーダー(東京 YMCA、とちぎ YMCA)、スタッフ(山梨 YMCA)、学生YMCA(中央大学、立教大学)、一般大学生(慶応義塾大学、武蔵野大学)、ワイズコメット(西日本区ワイズメンのコメットで大学生)

ネパールへの関心と意識の高い一般大学生の参加などで、参加するユースの分野が広がり、分野を超えた交流ができました。今回は西日本区から3人の参加者数でしたが、支援する西日本区ワイズの姿勢の積極性がとても印象的でした。今後西日本区からの参加者の増大が期待されます。

2. 事前説明会の重要性を再確認しました。

「学生YMCAに関して」の説明等があり、学Y参加者はもとより、都市YMCAメンバーも学Yに対する認識がより深まりました。又参加したユースのワイズメンズクラブおよびYMCA理解の良い機会となりました。

3. 広がったワイズメンズクラブの支援の輪

東日本区から13名のユース参加者に対応し、推薦・支援するクラブの拡がりがあり、支援クラブへの帰国報告会によって、ユースとの交流が実現し、さらにクラブのユースへの認識が高まりました。

4. アジア太平洋地域のユース代表

今回、アジア太平洋地域の代表に風間奈月さん(山梨YMCAユーススタッフ)が選ばれ、日本人ユースの存在感が高まりました。

5. 報告会について

各推薦・支援クラブによる AYC 参加者の帰国報告会につきましては、既に開催されたもの、そしてこれから開催されるものは以下の通りです。

東京八王子ワイズメンズクラブ
11 月 11 日(土)　会場:北野事務所
中央大学・サークル:ひつじぐもより5名参加報告

今年の YVLF に参加のワイズ

小口多津子

9 月 29 日から 10 月 1 日までの 3 日間で、第 35 回ユースボランティア・リーダーズフォーラムが東京YMCA山中湖センターでもたれました。もう 35 回目です。今年の実行委員長は、衣笠輝夫ワイズ。

各地 YMCA でボランティアをしている沢山のリーダーさん達、各 YMCA から 2 名ずつが推薦されて来ている皆さんです。山中湖センターに集い、親睦、話し合い、体験で過ごしてもらうというワイズメンズクラブのユース事業の一つです。リーダー個人の費用の 3000 円の他、費用の全て、ユース事業と各クラブから毎年集められた予算からでています。今年の参加リーダーは、北海道、もりおか、仙台、千葉の各 YMCA から各 2 名、ぐんま 3 名、茨木、埼玉、山梨 Y の各 1 名。東京は 10 名(各ブランチの合計)、横浜は 7 名も各ブランチからで、総数 32 名でした。他に東京 YMCA 事務局スタッフ 5 名、カウンセラー6 名でした。さらに参加ワイズメンが延べで 24 名

でした。その 24 名の中で、ユース委員を除いて、全日にわたり参加で遠くから来られたワイズは、北海道、札幌クラブ伏木ワイズ、北見クラブ二本松ワイズのお二人と区理事の山田公平さんでした。部分参加したワイズで、多いところでは伊東クラブから 6 名、甲府 21 クラブからは 5 名の参加でした。今年もぶどうのシャインマスカットをリーダーに差し入れて下さった甲府 21 クラブの小澤会長、野々垣さん、荻野さん、寺田さん、飯田さん皆さんにはいつも脱帽です。

＜参加のワイズメンはこのフォーラムの中で何を見ているのか？＞ ①自分の所属 YMCA から派遣のリーダーさんの応援。 ②はリーダーという若者が各 YMCA で働いている、彼らの YMCA の子供達に接するときの彼らの力量や思いとはどういうものか知りたい、そこを間近に見てみたい、ではないでしょうか。一日目に基調講演がありました。今年は、保育園と幼稚園経営されている小倉 哲氏と絵里夫人の二人制。お二人は元リーダー同志でした。講演を聞いて人間とは、生きるとはどういうことかを考えさせられます。小倉氏の言われた一言、「でもね、能力や有用性にしばられないでね。あなたの隣にいることが大切だよ」が心に残りました。講演を聞いて、夜遅くまでグループの中で話し合って自分たちの結論を出します。プログラム最後3日目の午前中に、グループによる最終報告会があり、この日の結論を報告します。壇上で報告するリーダー達へ、聞く側のカウンセラーや、ワイズメンたちのまなざしには熱い空気が流れます。

学業の合間に関わっているリーダーとしての役目、自分たちの体験を話し合って、それまでの辛かったこと楽しかったことを全部、この 3 日間の山中湖フォーラムで消化していくのです。発達障害の子供達にも関わっているリーダーもいます。大変なボランティアだと、私は何年も通っているこの山中湖で感じて帰ってきます。報告会の最後に、山田理事が講評をされました。その 時の言葉が、私はいつまでも耳に残りました。その一言は「私は、皆さんの報告を最後にお聞きして、心から感動させられました・・こんな立派な発表を聞くとは想像していませんでした」ということを言われました。

第３５ 回ユースボランテイア・リーダーズフォーラム（ＹＶＬＦ）・ワイズメンへの案内

第35 回YVLF実行委員長　衣笠輝夫

1987年に始まったユースボランティア・リーダーズフォーラムは今回で第35回目となります。本フォーラムはワイズメンズクラブとYMCAがパートナーシップのもと、協働して行うプログラムです。東日本に位置する各YMCAから経験 1～2 年目のリーダーが集い、グループとなってカウンセラー（リーダーOB・OG）のもと、メンバー経験をすることで、新しい経験と気付きが与えられていくものです。今、YMCAの活動は多様化しているため、その活動を支えるリーダーの活動も様々です。野外活動、ウエルネスに加え、特別支援教育、放課後等デイサービス、語学教育、福祉等の分野でリ

ーダーたちが活躍をしております。こうした様々な活動を支えるリーダーが集い、「一緒に何を学ぶのか、それらの活動に共通することは何か」を考えました。そして、「どのように人に向き合い」「どのように仲間を作るか」「どのように人間として成長するか」の3つの視点を柱にすることになりました。この目的のため、これまで長い間継続してきたテーマ「今、ユースボランティアリーダーに求められるもの」を変更し「私たちにとっての　みつかる。つながる。よくなっていく。」としました。多くのワイズメンの参加をいただき、若いリーダーたちが、なにを考え、どのように変わっていくかを、見守り、ご支援していただけますと幸いです。

多くのワイズメンの参加をいただき、若いリーダーたちが、なにを考え、どのように変わっていくかを、見守り、ご支援していただけますと幸いです。

ぶどうの丘例会に出席して

久保田貞視

2023 年 9 月 9 日、甲府21クラブ主催の「ぶどうの丘例会」に長谷川ワイズと東京 YMCA 所属の岡垣氏と出席しましたので報告いたします。甲府21クラブではもともと今春逝去された相川ワイズが20年くらい前に山梨中央銀行を定年退職されて勤務されたブドウ園を利用し、葡萄樹の下での納涼例会としてワイン・ビール飲み放題とBBQ の懇親会を開催され、あずさ部他クラブからも大勢参加して盛大に開催され、人気のある納涼例会でした。

今回は勝沼ブドウの丘で、まず、例会を開き、その後BBQ での懇親会と、コロナで3年中止となり、4年ぶりに開催されました。

例会では小澤公紀会長の開会点鐘に始まり、途中、長谷川あや子あずさ部書記のあずさ部会のアッピールがあり、溝口ワイズのマンダリン演奏がありました。その後、大学卒業後、サントリーに入社されてワイン一筋に歩んでこられた萩原健一さんの「甲州ぶどうとワイン」の卓話がありました。卓話では、甲州ぶどうは、ぶどうの品種名で、伝説によると奈良時代の 718 年に僧行基が瞑想していると右手にぶどうを持ち、左手に宝印を結んだ金色に輝く薬師如来が現れ、行基は寺(大善寺)を建て、ぶどうをこの地に伝えたと言われています。甲州ワインは一般的に国内では有名ですが、2010年に国際ワイン機構は日本固有のワインブドウ品種「甲州」として記載されワインのラベルに「KOSHU」として欧州に輸出するようになりました。

懇親会はバーベキュー場に移動して、佐藤東日本区直前理事の開会の辞があり、東京西クラブの神谷ワイズの乾杯の音頭で始まりました。この BBQ 場からの眺めは抜群で、甲府盆地が山に囲まれていることが実感でき、ビール・ワイン飲み放題で BBQ を食しながら懇親・交流会は素晴らしいものでした。ワインは専ら甲州ワインで、国内では2番手になる蒼龍葡萄酒はじめ白、赤、ピンクのワインを飲み、会は大いに盛り上がりました。自然に恵まれた勝沼ブドウの丘での例会はあずさ部各クラブからより多くのの参加を増やし、あずさ部の連帯強化につながるものと確信します。

第３７回東京 YMCA インターナショナル・チャリティーラン参加報告

佐藤信也

大会当日、台風の影響もあり朝方の小雨が残る中にて開催となるかと心配をしましたが、開催時間にはなんとか雨もやみ、4 年ぶりに都立木場公園で 38 チーム計 228 人のランナーと伴走者が力いっぱい走りました。

レース前の「こどもラン」には幼児・小学生とその保護者あわせて約 300 人が参加。ボランティア・スタッフ約 230 人と応援者を合わせると来場者総数は 1,500 人を越え、にぎやかな大会となりました。

我が東京八王子ワイズメンズクラブも6名の精鋭を集め頑張りました。第一走は中央大学 YMCA ひつじ雲より会長の藤原さん、第二走は佐藤ワイズメン、第三走は担当主事の菅野さん、第四走は高尾の森わくわくビレッジ前館長の古市さん、第五走は並木美奈子メネット、そして第六走はアンカーとして並木真会長とワイズの皆さんの想いをタスキへ繋ぎながら、楽しく(必死に？？)、走り切りました。会場には応援としてかけつけてくれた長谷川ワイズ、小口ワイズの応援にも助けられました。

結果はなんとなんと24位！！35分05秒で走り切りました。ランナーの皆さんお疲れさまでした。

The 37th TOKYO YMCA
International Charity Run 2023
【4】 YM service Co.,Ltd
Wakuwaku Villege godo team
Place : 24 Time : 35 : 05
Date : September 23, 2023
上田 晶平
Tokyo YMCA International Charity Run
Executive Committee

ランナーの皆さんのコメントをご紹介して報告とさせて頂きます。

第一走'思いは力に変わっていく' 普段、一人一人が心の中に持っている「人の為になる事をしたい」その思いが徐々に集まり、大きな結晶として今回のインターナショナルチャリティーランに繋がっている事を心から嬉しく思いました。　　中大 YMCA ひつじ雲　藤原直輝

第二走

練習もしないで無謀な挑戦をしてしまったと、後悔先に立たずと思いきや、走る事の楽しさを思い出しながらチャリティーに参加でき沿道の皆さんの声援を浴びながら至福なひと時を過ごさせて頂きました。来年も AED を背負ってチャレンジできれば. . . . . ありがとうございます。　　佐藤信也ワイズメン

第三走

ランナーになるとは、まさに青天の霹靂でした。ケガや体調を崩して途中棄権して他のメンバーに迷惑をかけないようにすることだけを考えていました。沿道の声援はうれしく、勇気づけられました。感謝！

担当主事　菅野牧夫

第四走

このたび、高尾の森わくわくビレッジチームの仲間に入れていただき、かつてともに仕事をした菅野館長と再会し、なにより、並木夫妻、長谷川さん、小口さん、八王子ワイズの皆さまと再開でき、感激のチャリティーランでした。　　高尾の森わくわくビレッジ前館長　古市健

第五走

参加させて頂き有り難うございました！皆さんとラン祭り、楽しみました～！コロナで走ることを楽しむ人が増えたようですが私もその一人。そのお陰でこんなに楽しい会にも参加できました。これから走ろうと思っていらっしゃる皆さま、来年は是非ご一緒に！

並木美奈子メネット

第六走

インターナショナルチャリティーラン、参加させて頂きありがとうございました！和やかなお祭りをイメージしていましたが、皆さんマジ走り！藤原君も速い速い！タスキをつなぐ楽しさ、最後までつないでくれてありがとー！

会長　並木　真ワイズメン

東京ＹＭＣＡ　近況報告 10 月

菅野牧夫

8 月にハワイ・マウイ島で発生した大規模な山火事の被災者支援のため、「ハワイ・マウイ島山火事緊急支援募金」を開始した。募金はマウイ・ファミリーYMCAを通して、被災者の生活再建支援に用いられる。

9 月 1 日、「関東大震災 第 100 周年記念追悼合同早天祈祷会」が在日本韓国YMCAとの共催で在日本韓国YMCA9 階ホールで開催され、40 人が参加した。金性済牧師（日本キリスト教協議会総幹事）にメッセージをいただき、祈りを合わせた。

「第26回会員芸術祭」は今年もオンライン芸術祭として開催し、東京YMCAのHP上に 9～10 月の2カ月にわたり作品を掲載している。絵画、写真、陶芸、工作、書道など、85 点の多彩な作品が集まった。

今年、山中湖センターが開設 100 周年になるのを記念し、「東京YMCA山中湖センター100 周年記念募金」を行う。10 月 1 日からクラウドファンディングを、11 月からは口座振込等による募金受付を開始する。目標額は 2,000 万円とし、貧困等によりキャンプに参加できない子どもたち 100 人をキャンプに招待するプロジェクト、プログラム施設の新設、宿泊施設のリノベーションに用いる。募金活動推進のために、会員やリーダーOB、職員等による募金委員会が発足した。

9 月 15 日～20 日の日程で、「第 21 回アジア・太平洋YMCA大会」 がインド・チェンナイで開催され、日本からは 45 名（うち東京YMCAからは職員 4 名）が参加した。また大会前には、はじめての「ジェンダーフォーラム」、及び 35 歳以下のユースを対象とした「ユース・アセンブリー」も実施された。

◆　今後の主な行事日程

・「山中湖センター100 周年記念チャリティーコンサート」10 月 20 日

会場：日本基督教団霊南坂教会　出演：飯靖子氏・飯顕氏・高等学院生徒　他

以上

今月の聖句によせて：10 月度

先日の日曜日、私の所属教会で「こども祝福式」がありました。その日の礼拝プログラムで次の「親の祈り」が紹介されていました。カトリック教会の宣教師、ルイス・アロイジオ・カンガスによる祈りです。ご一緒に分かち合いたいと思います。

親の祈り

神さま、もっとよい私にして下さい。

こどもの言うことをよく聴いてやり、心の疑問に親切に答え、子どもをよく理解する私にして下さい。理由なく子どもの心を傷つけることのないようにお助け下さい。子どもの失敗を笑ったりせず、子どもの小さい間違いには目を閉じて、良いところを見させて下さい。良いところを心から誉めてやり、伸ばしてやることができますように。

大人の判断や習慣で子どもをしばることのないように、子どもが自分で判断し、自分で正しく行動していけるように導く知恵をお与えください。感情的に叱るのではなく、正しく注意してやれますように。道理にかなった希望はできるだけ叶えてやり、彼らのためにならないことはやめさせることができますように。

どうか意地悪な気持ちを取り去って下さい。私が間違ったときには、きちんとあやまる勇気を与えて下さい。いつも穏やかな広い心をお与えください。子どもと一緒に成長させて下さい。子どもも私も生かされて愛されていることを知り、他の人々の祝福となることができますように。

子どもは今の私たちの希望であり、社会の未来そのものと言えます。地球上のすべての子どもが健やかに成長することができるよう願いつつ、そして、それを可能にする社会を生みだす責任は自分にもあるのだと、あらためて気付かされます。　**並木信一**

わくわくビレッジ便

担当主事　菅野牧夫

やっと秋らしい空気になってまいりました。わくわくビレッジも夏の忙しさから少し解放されて日常が戻ってまいりました。

9/23(土)にインターナショナルチャリティーランが無事に開催されました。ワイズの皆様には、参加費の補助をいただきありがとうございました。今回私は初めてランナーとして参加しました。高校の部活以来走ったことなどほとんどなく、最後まで走れるのか不安でしたが、何とかゴールまでたどり着くことができました。高校時代はサッカー部に所属しており、マラソン大会で10㎞以上の距離を走っても何ともなかったのに、今回はたかだか 1.2～3 ㎞の距離なのに、ゴールが遠かったです。最初タスキを渡されたときはまだよかったのですが、公園内の橋を渡り切ったころには、息は苦しくなるし、足は前に出ないし、何度も途中で歩こうかと思いました。

しかしながら、沿道で私の名前を呼んで応援してくれる人たちがいると、止まるわけにもいきません。最後は歩くような速さで、タスキを次のランナーに渡しました。他のチームの応援団からの「がんばれー」の声援を受けながら、チームを超えた仲間を感じた一日でした。一緒に走ってくれた並木真夫妻、藤原さん、古市さん、佐藤さん、応援をしてくれた皆様、本当にありがとうございました。またその後のウォークイベントでもたくさんのワイズの皆さんが参加していただき、楽しい時間を過ごしました。

秋はわくわくビレッジのイベントも多くあります。今年は10/28(土)～29(日)で「八王子城馬上弓くらべ」が開催されます。また 11/12(日)は「わくわくフェスティバル」が開催されます。どうぞお誘いあわせの上お越しください。なお「八王子城馬上弓くらべ」は車でのお越しを制限しておりますので、公共交通をご利用ください。

ひつじぐも便

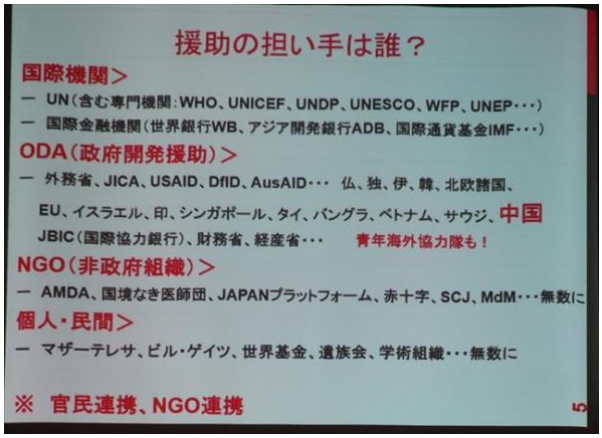
ひつじぐも　委員長　大山　希

少し前の話となりますが、9 月9日の例会に参加し、東京農工大学教授の横森さんのお話を伺いました。難民キャンプのことや支援の仕方・支援基準など多くのことを学びましたが、特に、どのような支援の仕方が本当に困っている人々を救うことになるのか、について考えさせられました。横森さんのお話にもあったとおり、貧困を改善するために金銭援助をしても、内政干渉や政治家の腐敗などの理由から、そのような援助が貧しい人に本当に届くとは限りません。そこで、途上国の貧困を解消するためにはどのようなアプローチがあるのか、私なりに考えてみました。

ひとつは、国際的に世界政府のような国家の上に立つ機関を作り、政策的に(強制力を持って)貧困を是正するというものです。世界政府がない今、国が国に何かを強制し干渉することは難しいですが、世界政府があれば途上国内部への干渉がしやすくなり、より直接的に貧しい人々を救うことができると考えました。ただ、世界政府を作ることは現実的ではないと思います。

違う方法として、途上国全体の経済成長を促すことで、貧困層を含む国全体を豊かにする、ということも考えました(スピル・オーバーというやり方です)。しかし、それが本当に貧しい人々を救っているのかは評価が難しく、時間がかかりすぎるとも感じました。

横森さんのお話とは少しずれた感想とはなってしまったかもしれませんが、今回の例会に参加したことで、国際問題について考える良い機会となり、とても有意義な時間となりました。ひつじぐもは国際的なボランティアが多くはないので、このような機会はありがたく感じています。国際的な援助は、国家同士の関係、そして国家内部の体制にも左右されるので、とても難しい問題だと改めて感じました。



【クラブ９月第一例会報告】　書記：小口

日時:2023 年 9 月 9 日(土)6:00～北野事務所会議室

出席者(敬称略):(メンバー)長谷川、菅野、小口、久保田メン・メネット・望月、並木(真)、花輪メン・メネット、山本、並木メン・メネット

(ひつじぐも)大山 希(3年)、森脇啓心(3年)、西成 望(2年)、武田万里(1年)、風間梓沙(1年)、小宮夏光(1年)

(ゲスト)卓話者、横森佳世氏、大浦 明、斎藤愛子、北田ご夫妻・・八王子国際友好クラブの方々

岡垣修武・・高尾山登山の会メンバー　(ゲストは、久保田さんのご紹介)　以上、24 名

卓話:「日本の国際貢献を知る」東京農工大学准教授、横森佳世氏

マザーテレサのおられたインド・カルカッタの「死を待つ人の家」で、一人の支援からを、と訪れたのを皮切りに、UNHCR でのネパール、ブータン難民キャンプを支援。国際 NGO・AMDA、JICA 専門家としてバングラディシュ、ミャンマー、ケニアなどへ行き緊急救援事業や開発に従事してこられました。この道へ進むきっかけとなったのは、中学生の時に国連事務総長だったハマーショルド(スウエーデンの政治家)の伝記を読んだことから。JICA と ODA のこと。ODA の有償, 無償援助の話、また自然災害のあった国への日本からの援助のチーム派遣の基準とは何か。それは、死者が 100 人以上出たか、現地でのパートナー(協力者)の確保ができているか、活動の効果が期待できるか。日本のメディアに報道されるか等でした。また現地の国民が持っている日本への印象など、内容がとても奥の深いお話でした。聞く側との対話式に話された卓話が新鮮でした。

連絡事項:

・YMCA 報告(菅野)・・第 37 回東京 YMCA チャリティーラン　駅伝大会 9 月 23 日土、都立木場公園内コース 1.3 キロ／人のコースを 6 人でタスキをつないで完走。(走者／並木真、美奈子、佐藤、菅野、ひつじぐも藤原、わくわくビレッジスタッフ)、会場ボランティアに長谷川、小口

チームレース(わくわくビレッジチーム)

期間 9/23~10/1、 個人記録はチームに合算されて、チームの順位が決まる。

登録の詳細と申し込みは菅野担当主事へ。

・あずさ部部大会 10 月 21 日(長野／善行寺)・・ホストクラブは長野クラブ。締め切り、9 月 28 日までに書記へ。現在迄の出席者・・並木(真)、長谷川、久保田、小口

・東京 YMCA 山中湖キャンプ場開設 100 周年記念事業への寄付。八王子クラブではスマイル献金の 8 月、9 月分を当てることとしました。

8 月スマイル(14,000 円)、9 月スマイル(8,500 円)

・10 月第一例会(あずさ部森本部長公式訪問)

C 班担当　10 月 14 日(土)13 時～15 時　高尾の森わくわくビレッジ、食事付き。

・AYC(8 月 23～29 日)ネパール、日本からの参加者 16 名全員が無事帰国。八王子クラブ、ひつじぐも 5 人の報告会は、11 月 11 日北野事務所。

・第 30 回アジア太平洋地域大会(香港 2023)11 月 2～6 日　参加者は、久保田、並木(真)。

【クラブ　９月第二例会報告】　書記:小口

日時:2023 年 9 月 23 日土　18:00～　北野事務所小会議室

出席者:長谷川、久保田、花輪、望月、並木(真)、山本、並木(信)、小口(8名)

＜報告事項＞

1. 9月第一例会(9月9日)出席者:クラブメンバー12名、ひつじぐも 6 名、ゲスト 7 名・・25名

   卓話:横森佳世氏、「日本の国際貢献を知る」

   9 月スマイルの 8,500 円は、8 月分 14,000 円との合計 22,500 円を山中湖キャンプ場 100 周年記念事業へと寄付。

＜クラブ確認事項＞

1. 10 月第一例会:C 班(10 月 14 日土、pm1:00～3 時
会場:高尾の森わくわくビレッジ
あずさ部部長、森本俊子氏公式訪問　卓話「私とハンドベル」森本さん　＊食事付
2. 11 月第一例会:A 班(11 月 11 日土、pm6:00～8:00)
会場:北野事務所　＊食事なし

AYCひつじぐも参加者報告会。ハイブリッド例会。

3. 12 月クリスマス例会:B 班(12 月 9 日土)
会場:八王子セミナーハウス ピアノ演奏:永町匡世さん、バイオリン演奏:阿部智世さん

4. あずさ部第 2 回評議会 2 月 10 日 会場:高尾のわくわくビレッジ。ホスト、東京八王子クラブ

5. 2024 年 3 月チャリティーコンサート・街頭募金
・街頭募金・・2024 年 3 月 2 日(土)pm1:00～
JR八王子駅北口
・コンサート、街頭募金は主旨を統一し、対人地雷廃絶・クラスター爆弾廃絶とする。

＜ワイズ・YMCA 関係＞

1. AYC(8 月 23～29 日、ネパール)ひつじぐも 5 名は無事に帰国。
2. YVLF(9 月 29～10 月 1 日、YMCA 山中湖センター)北海道から山梨までの YMCA リーダーの研修会・親睦。参加リーダー41 名、(参加:小口)
3. 東京 YMCA 会員芸術祭(オンライン)9 月 1 日～10 月 31 日まで
4. 第37回東京 YMCA チャリティーラン 9 月 23 日(土)会場:江東区木場公園イベント広場
・「わくわくビレッジ合同チーム」参加走者：並木、並木美奈子、佐藤、菅野、ひつじぐも藤原(直)、古市 健、会場ボランティア：長谷川、小口。チーム成績、41 チーム中 24 位、賞状
・チームウオーキング 9／23～10／1 参加者は上記走者 5 名ほか、久保田、山本、稲葉、小口
5. あずさ部部大会（10 月 21 日土)、長野、善光寺事務局、ホストクラブ：長野クラブ
参加者：並木（真)、長谷川、久保田、花輪、小口
6. 東京 YMCA 山中湖キャンプ場開設 100 周年記念キャンプ 10／28～29
7. アジア・太平洋地域大会（香港）11 月 3 日～5 日
参加者：久保田、並木（真）
8. 第 19 回富士山例会(富士五湖クラブ)9 月 30 日～10 月 1 日 参加:長谷川

10 月の誕生

小口多津子さん 10 月 4 日

並木 真さん 10 月 20 日

10 月卓話者紹介

森本俊子さん プロフィール

諏訪市に生まれ、18 歳まで育つ。
義務教育の範囲内で音楽大好き人間になる。
縁あって、日本基督教教団の柳町教会に日曜学校から中学 1 年まで通う。
教職に就くつもりで信州大学教育学部に入学したが、東京オリンピック後の好景気時代だったので、敢えて、地元の民間放送局へ就職。
長野オリンピックの中継を最後に制作畑から事業畑に移り、音楽祭のプロデュースのほかに数々の展覧会もプロデュースした。
定年退職後ハンドベルを購入、研修、グループ作成、演奏活動をしている。
2010 年 10 月長野ワイズメンズクラブのチャーター時に入会。会長に就任。

「アジア太平洋地域ユースコンボケーション」

バスケット・バレーボールの起源
－北米 YMCA で生まれたスポーツ－

並木 信一

来年にパリ・オリンピックを控えて、今、かってないほどに日本でスポーツが盛り上がりを見せています。とりわけ、12 カ国のみに出場権が与えられるバスケットボールは、48 年ぶりに(パリ)オリンピックに自力で出場権を獲得したことで一躍脚光を浴びています。八王子にはプロバスケットボールチームもあり、とりわけ関心も高まっているようです。

ところで、このバスケットボールというスポーツがYMCA で考案されたスポーツであることは、YMCA 関係者以外で知る人は多くないようです。

バスケットボールが考案され、はじめて披露されたのは、1891 年 12 月 21 日、アメリカ、マサチュセッツ州スプリングフィールドにあり、体育指導者を養成する学校であるインターナショナルYMCA トレーニングスクール(現在のスプリングフィールド大学)でした。

教授であるルーサー・ギューリック博士(YMCAの赤い逆三角形のシンボルマークの考案者)は、雪のため屋外での運動ができない学生のために、屋内でできる新しいゲームを考案することを課題として学生に提示しました。この課題に対して、学生であり、非常勤講師でもあった、カナダ出身のジェイムスA・ネイスミスが考案したのがバスケットボールでした。アメリカンフットボールのように激しい身体的な接触もない安全なゲームとして、バスケットボールは全米のYMCA を通じて瞬く間に広まっていきました。初め、カゴとして用いたのは、収穫した桃を入れる籠でした。

また、YMCAのトレーニングセンターには外国からの留学生も多く、外国にもたちまち広まっていきました。日本には、この学校に留学していた大森兵蔵が 1909 年に東京YMCA の体育主事となり、このバスケットボールをもちかえって紹介し、各地のYMCAを通じて広がっていきました。バスケットボールは、1913 年に北米YMCA から派遣されたフランクリンH・ブラウン主事によってさらに正しく指導され、第5・第6回極東オリンピックにおけるバスケットボールの日本代表には、日本選手権に勝利した、東京YMCA のチームが選ばれました。

なお、バレーボールもインターナショナルYMCAトレーニングスクールの卒業生で、アメリカのYMCA の体育指導者であった、ウイリアム・モーガンによって 1895 年に考案されたスポーツです。バスケットボールよりもさらに身体的な接触の少なく、老若男女が楽しめる安全なスポーツとして、やはり各地のYMCA を通じて広まっていきました。日本には、1913 年、先のフランクリンH・ブラウン主事により紹介・指導され、広まっていきましたが、実は、初めてバレーボールを日本で紹介したのは、東京YMCA の大森兵蔵主事で1908年のことでした。

バスケットボールやバレーボールのように、世界的な広がりのあるスポーツで、考案者や考案された時期・場所のようなルーツが明確なスポーツは極めて珍しいとされますが、共にYMCA にそのルーツがあることは是非覚えておいて頂きたいものです。